

平成 23 年 6 月 9 日

6 月定例所長会見における横村所長挨拶内容

○ 所長の横村でございます。

○ 東北地方太平洋沖地震という大震災発生から 3 ヶ月が経とうとしています。

福島第一原子力発電所の事故を引き起こし、また放射性物質を放出してしまったことについて、福島県の皆さま、新潟県の皆さま、そして広く社会の皆さまに、引き続きご心配とご迷惑をおかけしており、あらためて心よりお詫び申し上げます。

当社は、福島第一原子力発電所の対応につきまして、5 月 17 日に事故の収束に向けた道筋の進捗状況をお示しし、原子炉および使用済燃料プールの安定的冷却状態を確立し、放射性物質の放出を抑制することに向けて全力で取り組んでいます。

現在、福島第一原子力発電所の 1～3 号機の原子炉及び 1～4 号機の使用済燃料プールへの注水・冷却を継続的に行っております。至近の主要な作業として、建屋等に滞留する汚染水（滞留水）を浄化処理して原子炉注水のために再利用する循環注水冷却の準備や使用済燃料プールへの注水・冷却のための仮設ポンプ・熱交換器の設置など、作業を着実に進めております。

一方、当所においては、今回の福島第一原子力発電所の事故を踏まえて、津波に対して万全の態勢をとるべく緊急安全対策を整え、現在、さらなる信頼性を確保するための対策についての検討を進め、準備が整ったところから順次工事を進めているところです。

これまでに、緊急安全対策として、仮に想定を超える津波が発生し、敷地内に海水が浸入するような状況においても原子炉並びに使用済燃料プールの冷却機能を確保できるように、必要となる電源車や消防車、水中ポンプ、その他の資機材を速やかに配備しております。

5月25日には、夜間帯において、これら緊急安全対策として配備した設備を用い、約60名が参加し実践的な訓練を行いました。視界が悪い中での照明の設置や注水用ホース、電源ケーブルの布設など、必要な行動が迅速かつ着実に行えることを確認するとともに、あわせて対応要員の把握なども行いました。

また、今後のより一層の信頼性を確保するための津波対策について、防潮壁や水密扉の設置工事の一環として、1号機において建屋の出入口扉の補強工事や給気口の止水板の設置工事などに着手し、順調に工事を進めているところです。

今週7日には経済産業省より、万一シビアアクシデントが発生した場合においても迅速に対応するための5つの措置に関する実施状況の報告を求める指示、ならびに開閉所等の地震対策に関する指示をいただいております。今後、この指示に基づき当所での取り組み状況を取りまとめご報告してまいります。

今後も津波に対する発電所全体としての安全性、信頼性をより一層高めていくとともに、こうした工事の進捗状況につきましては、随時皆さまへもお伝えしてまいります。

○ 次に、地域の皆さまへの説明会の実施についてです。

先月30日、31日と2日間に渡り、刈羽村、柏崎市において地域の皆さまへの説明会を開催いたしました。当日は、東北地方太平洋沖地震に伴う福島第一原子力発電所の事故の状況やその後の対応状況、当所における津波対策に関する取り組み状況についてご説明をさせていただきました。

2日間で約300名と、これまで中越沖地震以降に開催しました説明会で最多となる地域の皆さまにお越しいただき、大変多くのご意見やご質問を頂戴しました。

具体的には「事態を収束できない東京電力に原子力発電を運転する資格はあるのか」、「あらゆることを想定した津波対策をとるべき」などのご意見や、「発電所は防潮堤で守られるかもしれないが、発電所周辺地域に大津波が来たらどうなるのか」、「津波対策の説明をするが、地震で配管が壊れたのではないか」などの大変厳しいご質問をいただき、私どもがこれまでに知り得る事実について誠心誠意お答えさせていただきました。

また、福島から避難されてきている方からは、「何年待てば安心して暮らすことができるのか」、「本当に発表されている工程表で収束するのか。収束しても私たちは帰れるのか」とのお話をいただき、多大なご迷惑やご不便をおかけしていることを痛切に感じ、1日でも早い収束に向け取り組まなければならないと改めて強く感じた次第です。

当日は、できる限り地域の皆さまの声に直接お答えするよう努めましたが、大変多くのご質問をいただき、限られた時間の中ですべてのご質問にお答えすることが叶いませんでしたので、本日までにすべてのご質問に対する回答を取りまとめ、当所のホームページに掲載いたしました。

説明会でいただいた皆さまからの貴重なご意見を肝に銘じ、今後の発電所運営に生かしていくとともに、さまざまな機会を捉えて、正確かつ分かり易い情報発信に努めてまいります。

○ 本日、私からは以上です。

以 上

添付) 柏崎刈羽原子力発電所DATA BOX

プレス公表 (運転保守状況)

柏崎刈羽原子力発電所DATA・BOX(平成23年6月)

平成23年6月9日

① 発電所運転状況

プラント名	現在の 運転(発電)状況	前回定期検査	過去1年間の運転状況												補足説明		
			7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6			
1号機 110万kW (S60.9.18運開)	運転中	第15回 H19.5.4～H22.8.4 停止期間 H19.5.4～H22.6.6 (1130日) (原子炉起動H22.5.31)															
2号機 110万kW (H2.9.28運開)	第12回定期検査中 定検停止期間:H19.2.19～	第11回 H17.9.3～H18.5.9 停止期間 H17.9.3～H17.12.25 (114日) (原子炉起動H17.12.22)	第12回定期検査による停止														
3号機 110万kW (H5.8.11運開)	第10回定期検査中 定検停止期間:H19.9.19～	第9回 H18.5.12～H18.9.15 停止期間 H18.5.12～H18.7.27 (77日) (原子炉起動H18.7.24)	第10回定期検査による停止														
4号機 110万kW (H6.8.11運開)	第10回定期検査中 定検停止期間:H20.2.11～	第9回 H18.4.9～H19.1.11 停止期間 H18.4.9～H18.12.14 (250日) (原子炉起動H18.12.11)	第10回定期検査による停止														
5号機 110万kW (H2.4.10運開)	運転中	第12回 H18.11.24～H23.2.18 停止期間 H18.11.24～H22.11.25 (1463日) (原子炉起動H22.11.18)	第12回定期検査による停止														
6号機 135.6万kW (H8.11.7運開)	運転中	第9回 H22.10.31～H23.3.9 停止期間 H22.10.31～H23.1.26 (88日) (原子炉起動H23.1.23)	第9回定期検査による停止														
7号機 135.6万kW (H9.7.2運開)	運転中	第9回 H22.4.18～H22.7.23 H22.4.18～H22.6.28 (72日) (原子炉起動H22.6.26)															

【7号機】
 ・平成22年10月1日から漏えい燃料周辺の制御棒6本を挿入した状態で、定格熱出力一定運転中。(お知らせ済み)
 ・5月13日にハフニウムフラットチューブ型制御棒の動作確認を実施し、「異常なし」。次回の動作確認予定は6月中旬。

※プラント名欄に記載してある出力は「定格電気出力」

② 発電所設備利用率(%) (5月末現在)

5月	61.2%
23年度累計	61.2%
運転開始後累計	64.6%

③ 発電所発電電力量(万kWh) (5月末現在)

5月	373,914
23年度累計	736,134
運転開始後累計	85,416,829

④ ドラム缶発生量(本) (H22年度第4四半期)

当期発生本数	704
貯蔵庫累積貯蔵本数	31,923
貯蔵庫保管容量	45,000

⑤ 使用済燃料貯蔵体数(体) (H22年度第4四半期)

使用済燃料貯蔵プール貯蔵体数	13,160
使用済燃料貯蔵プール管理容量	16,915
使用済燃料貯蔵プール貯蔵容量	22,479

⑥ 構内従業員データ(人) (6月1日現在)

		東京電力	協力企業	比率
県内	柏崎市	963	2,492	52%
	刈羽村	96	231	5%
	その他	108	997	17%
	小計	1,167	3,720	74%
県外		82	1,615	26%
合計		1,249	5,335	—
		6,584		100%
協力企業社数(社)		693		

※「比率」について端数処理の関係で数値と計が含まない場合がある。

⑦ 来客情報(人) (5月末現在)

	5月	年度累計
地元	1,199	2,845
県内	2,100	3,837
県外	1,946	2,842
国外	4	17
合計	5,249	9,541

⑧ 今後の主なスケジュール

予定日	内容
7月14日	次回定例所長会見予定

インターネットホームページアドレス
<http://www.tepco.co.jp/nu/kk-np/index-j.html>

東京電力株式会社
 柏崎刈羽原子力発電所
 広報部
 0257-45-3131(代)

プレス公表（運転保守状況）
～中越沖地震関連を除く～

平成23年6月9日
定例所長会見資料

No.	お知らせ日	号機	件名	内容
①	5月6日	1号機	残留熱除去系電動弁の不具合について（区分Ⅱ）	<p>（事象の発生状況） 平成23年5月5日（木）午後11時1分頃、定格熱出力一定運転中の1号機（定格出力110万キロワット）において、非常用炉心冷却系の一つである低圧注水系の機能を確認するため、残留熱除去系電動弁の定例試験を実施していたところ、3系統ある低圧注水系のうち1系統の電動弁1個が全開から全閉動作しないことを確認したことから、保安規定で定める運転上の制限を満足していないと判断いたしました。このため、当該弁を手動で全閉状態にするるとともに、運転上の制限を満足しない場合に要求される措置として、残りの2系統の低圧注水系の機能が健全であることを直ちに確認しております。また、保安規定上10日以内に当該系統を動作可能な状態に復旧することが求められており、今後、速やかに復旧の対応を行うこととしておりました。</p> <p>（安全性、外部への影響） 本事象による外部への放射能の影響はありません。</p> <p>（対応状況） その後の調査において、当該弁の駆動電源となる電源装置内に設置されている電磁式スイッチが一時的に動作不良な状態にあることを確認いたしました。 このため、当該弁の電源装置を予備品と交換し、弁の動作確認を行い、健全性について確認したことから、平成23年5月6日午後5時14分、運転上の制限を満足しない状態から復帰いたしました。 <u>動作不良が確認された電源装置を工場へ搬出し、当該弁が動作不良に至った原因について詳細調査した結果、電磁式スイッチの構成部品（プラスチック製）が経年的な使用によりわずかに寸法が変化したことで、構成部品の可動部の摩擦抵抗が大きくなり、その結果、電磁式スイッチの動作不良に至ったものと推定いたしました。なお、1号機の同形式の電磁式スイッチを使用している非常系負荷用電源装置については、念のため次回定検時に交換を実施します。</u></p>